

Quantum Leap

発想の飛躍



トヨタ紡織株式会社

東証1部 証券コード 3116

2014年度 (2015年3月期)

第2四半期 決算説明会

開催日: 2014年11月10日

場 所: トラストシティ カンファレンス・丸の内



Quantum Leap

発想の飛躍

1. 決算状況

- 1) 決算概要
- 2) 2014年度（2015年3月期）第2四半期決算状況
- 3) 2014年度（2015年3月期）通期業績予想

2. 地域別の取り組み

- 1) 地域別の取り組み〔北中南米・欧州〕

3. 事業の取り組み

- 1) 足元固めの取り組み
- 2) 技術開発



Quantum Leap

発想の飛躍

1 決算状況

- 1) 決算の概況
- 2) 2014年度 第2四半期決算状況
- 3) 2014年度 通期業績予想

1-1) 決算の概況

1. 上期は、北中南米の台数増などにより増収となったものの、アジア・オセアニアの車種構成悪化の影響や北中南米の製品立上げ影響などにより減益

2. 通期は計画に対し、日本の台数増はあるものの、アジア・オセアニアの台数減や車種構成の悪化により、通期予想は据置

3. 中間配当金は、1株につき 9円

1-2) 2014年度 第2四半期 連結決算概要

【第2四半期連結決算概要】

(億円)

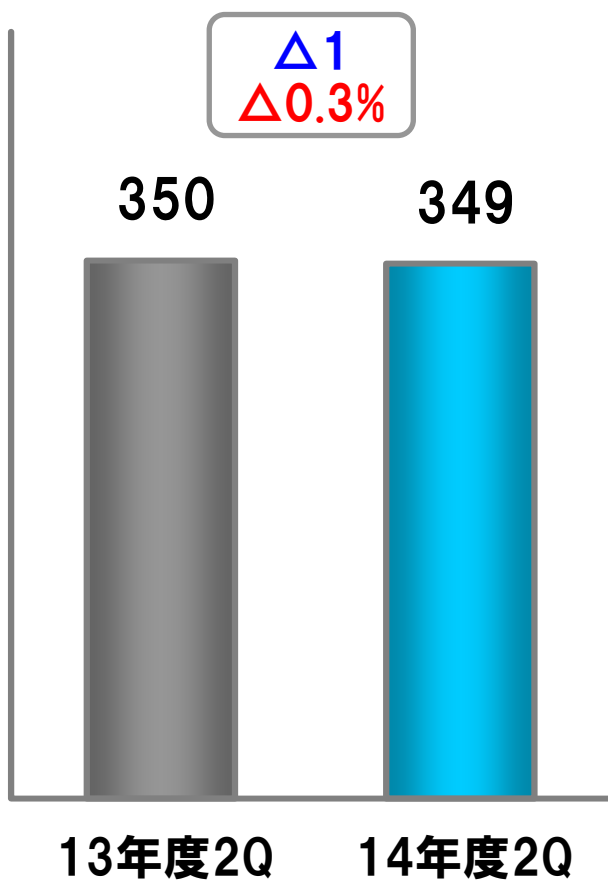
	13年度2Q		14年度2Q		増減		1Q時予想	
売上高	5,921	100.0%	6,257	100.0%	335	5.7%	5,800	100.0%
営業利益	161	2.7%	145	2.3%	△16	△10.1%	90	1.6%
経常利益	228	3.9%	189	3.0%	△39	△17.2%	100	1.7%
当期純利益	114	1.9%	87	1.4%	△27	△24.0%	20	0.3%
1株当たり当期純利益	62円00銭		47円15銭					
1株当たり配当金	9円00銭		9円00銭					
為替レート	USドル	99円	103円	4円	円安			
	ユーロ	130円	139円	9円	円安			

1-2) 2014年度 第2四半期 地域別生産台数

シート生産台数

連結全体

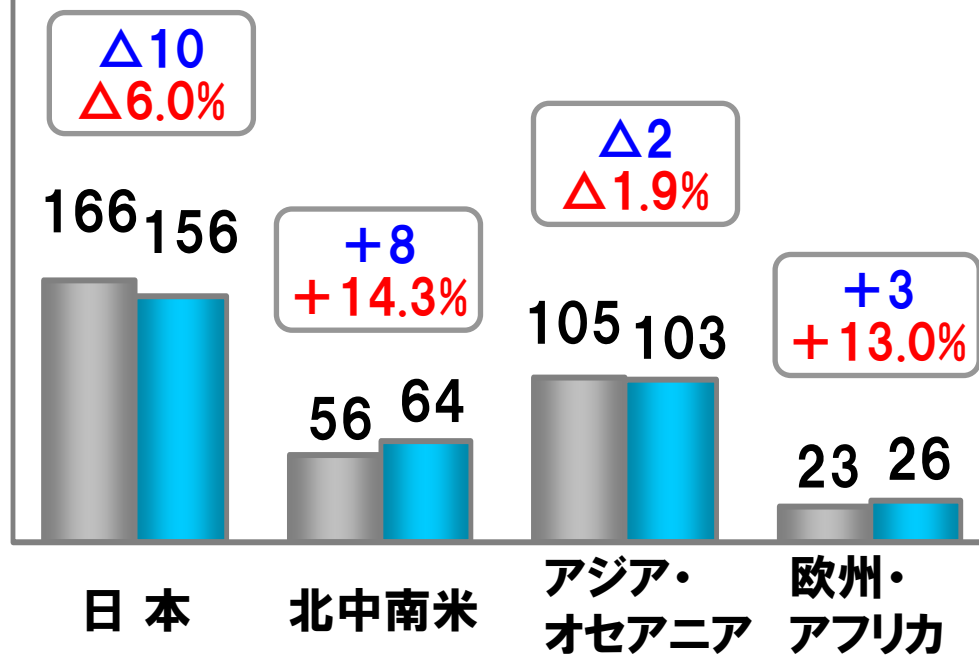
(万台)



セグメント別

(万台)

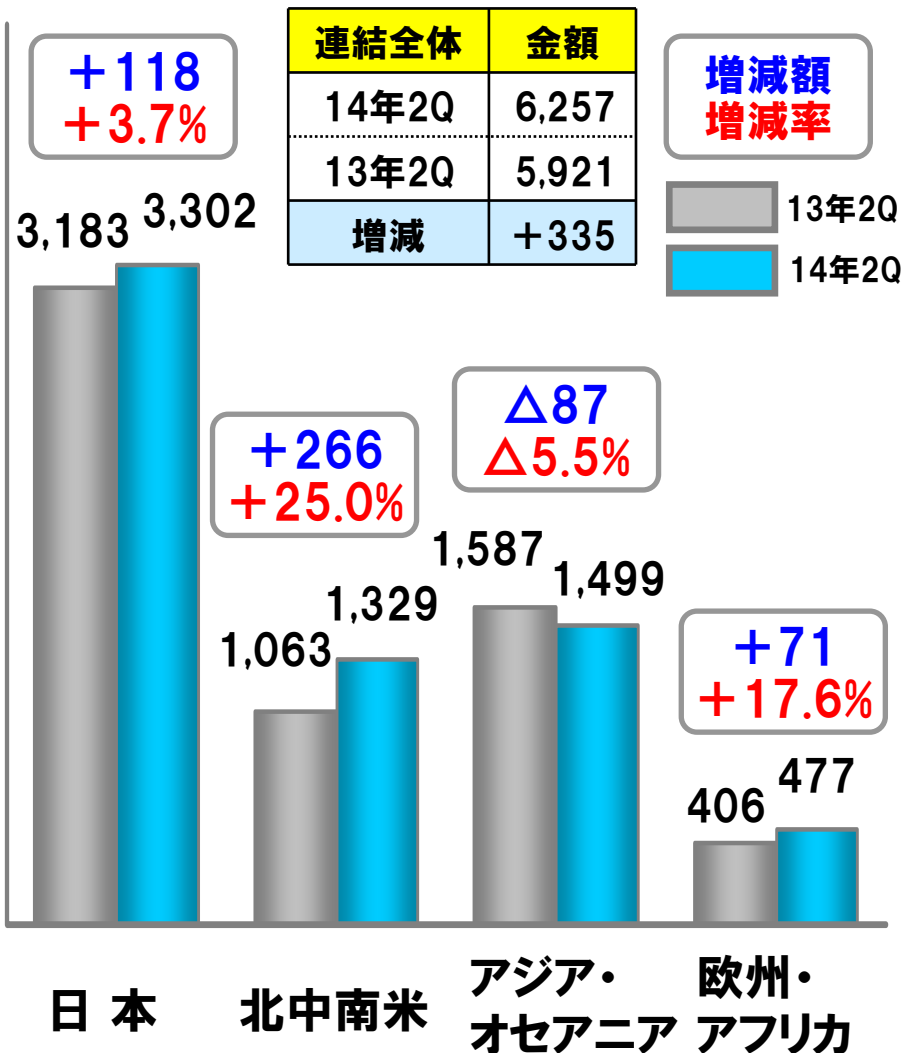
※ 増減台数
増減率 をそれぞれ表示



1-2) 2014年度 第2四半期 地域別セグメント情報

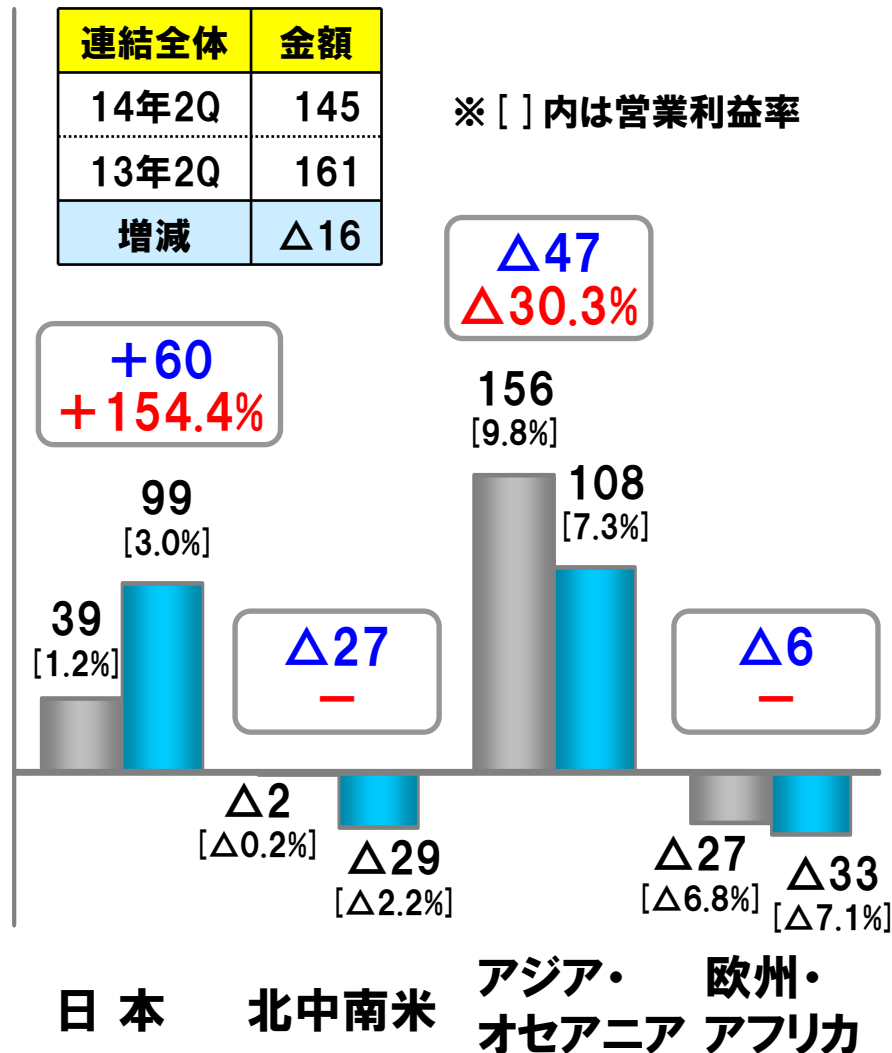
売上高

(億円)



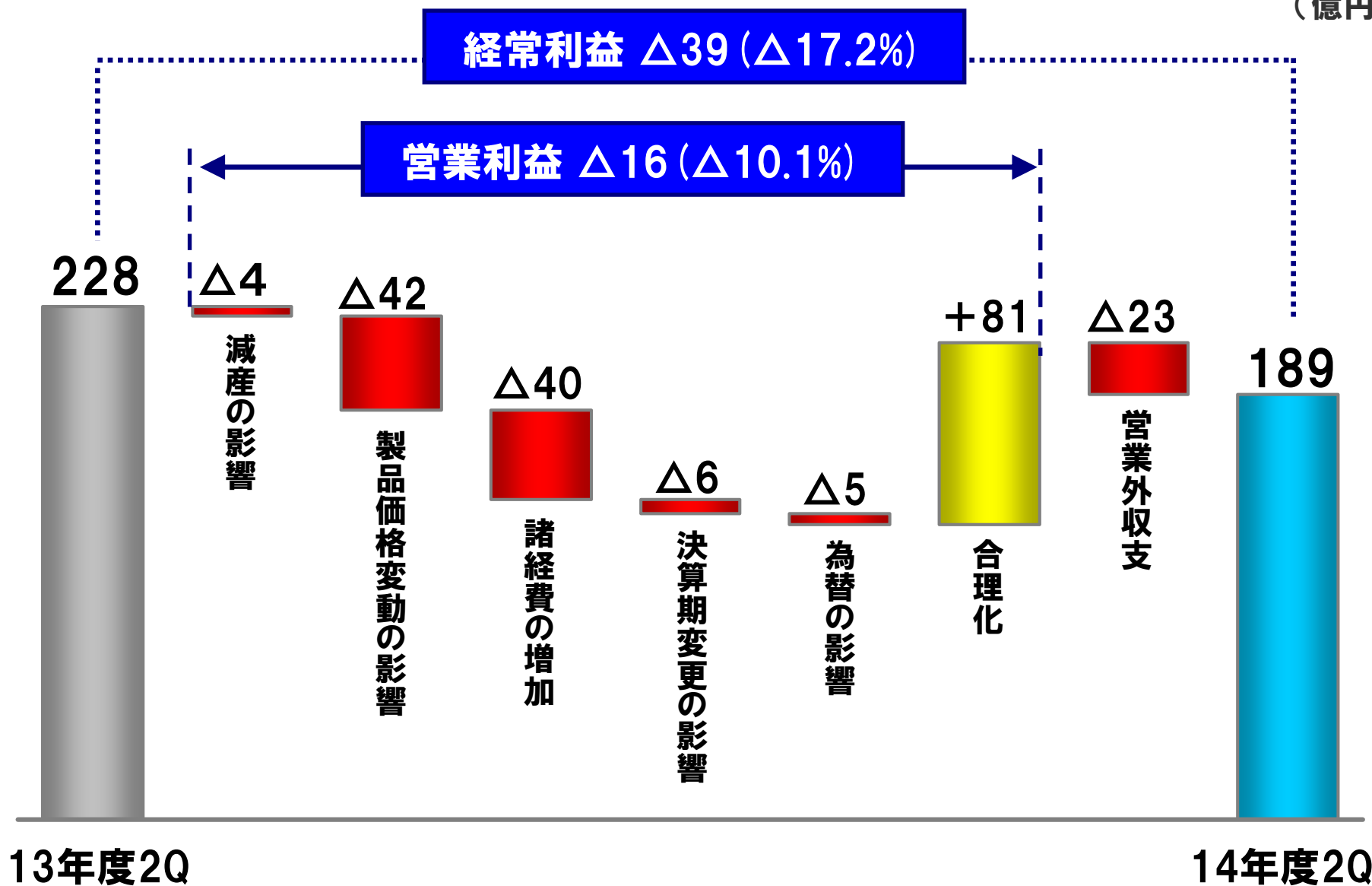
営業利益

(億円)



1-2) 2014年度 第2四半期 経常利益増減要因

(億円)



1-3) 2014年度 通期業績予想

【連結決算 通期業績予想】

(億円)

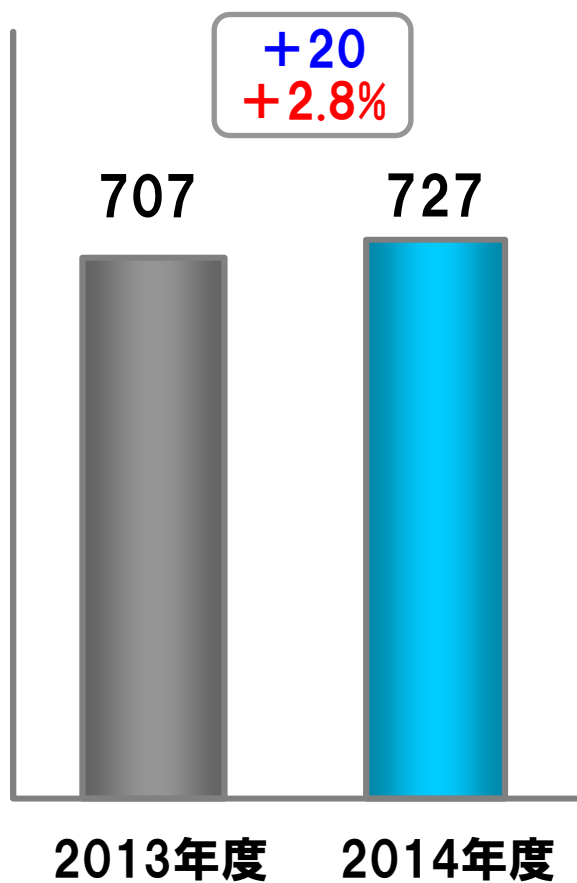
	13年度実績		14年度予想		増減		1Q時予想	
売上高	12,183	100.0%	12,000	100.0%	△183	△1.5%	12,000	100.0%
営業利益	288	2.4%	270	2.3%	△18	△6.3%	270	2.3%
経常利益	402	3.3%	290	2.4%	△112	△28.0%	290	2.4%
当期純利益	126	1.0%	120	1.0%	△6	△4.8%	120	1.0%
1株当たり当期純利益	68円05銭		64円76銭				64円76銭	
1株当たり配当金	18円00銭		18円00銭				18円00銭	
為替レート	USDドル	100円	104円	4円	円安	101円		
	ユーロ	134円	137円	3円	円安	136円		

1-3) 2014年度 通期業績予想 地域別生産台数

シート生産台数

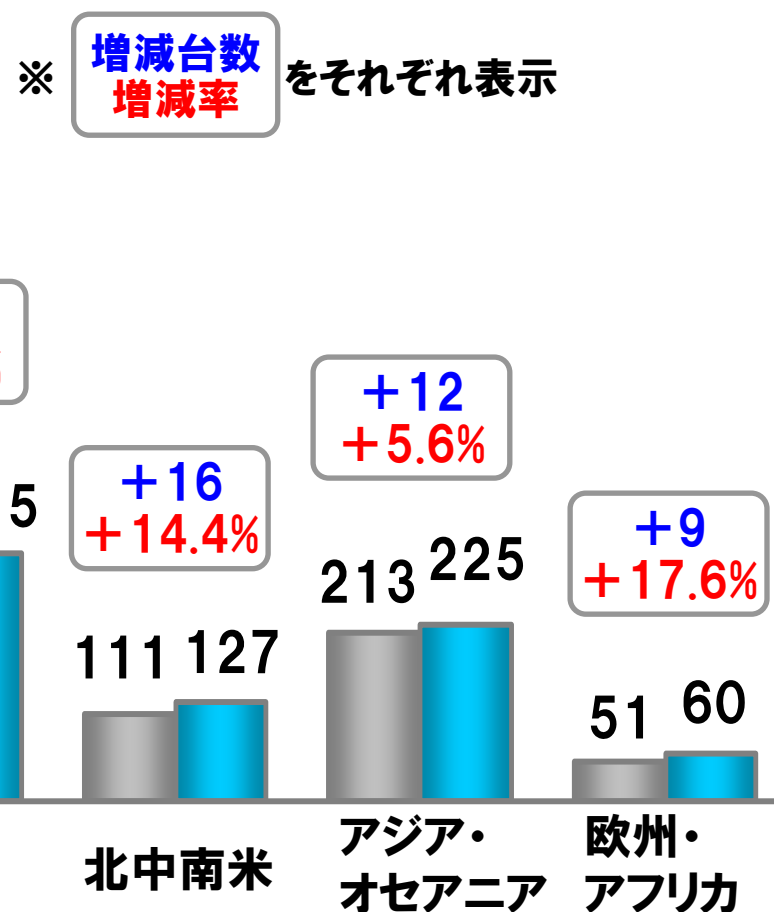
連結全体

(万台)



セグメント別

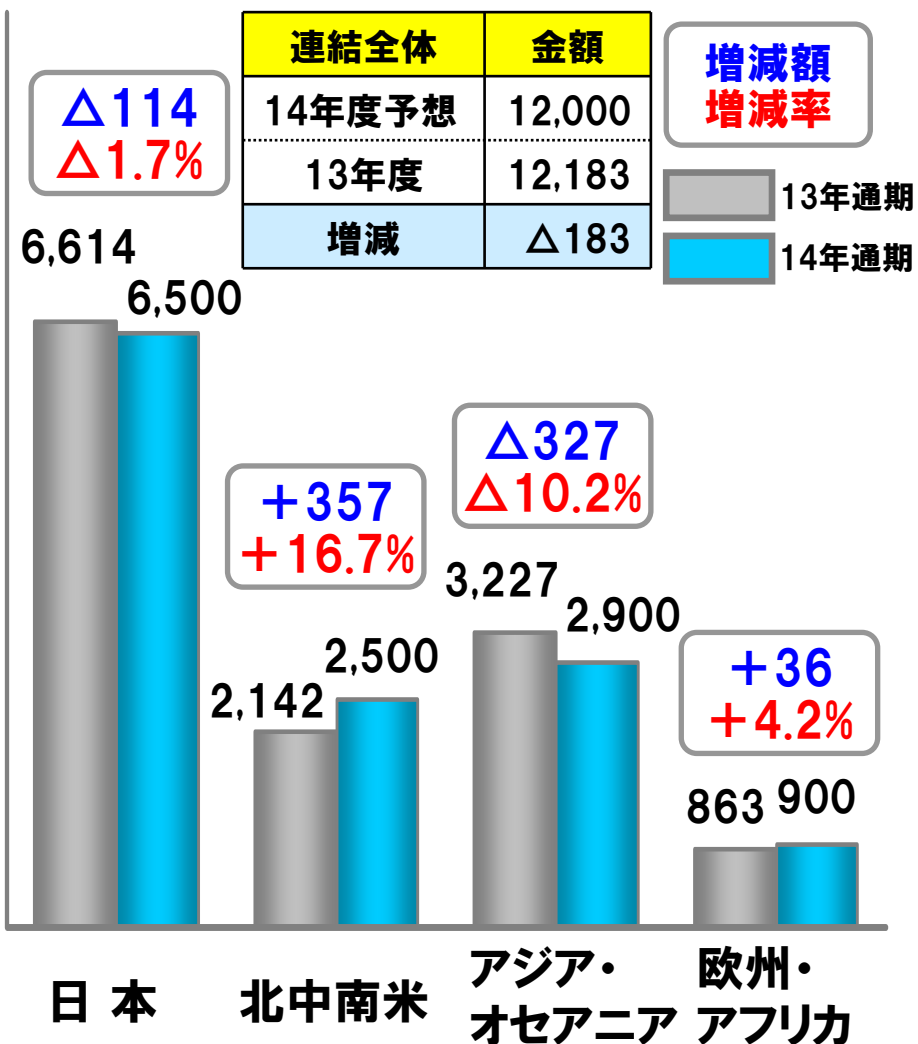
(万台)



1-3) 2014年度 通期業績予想 地域別セグメント情報

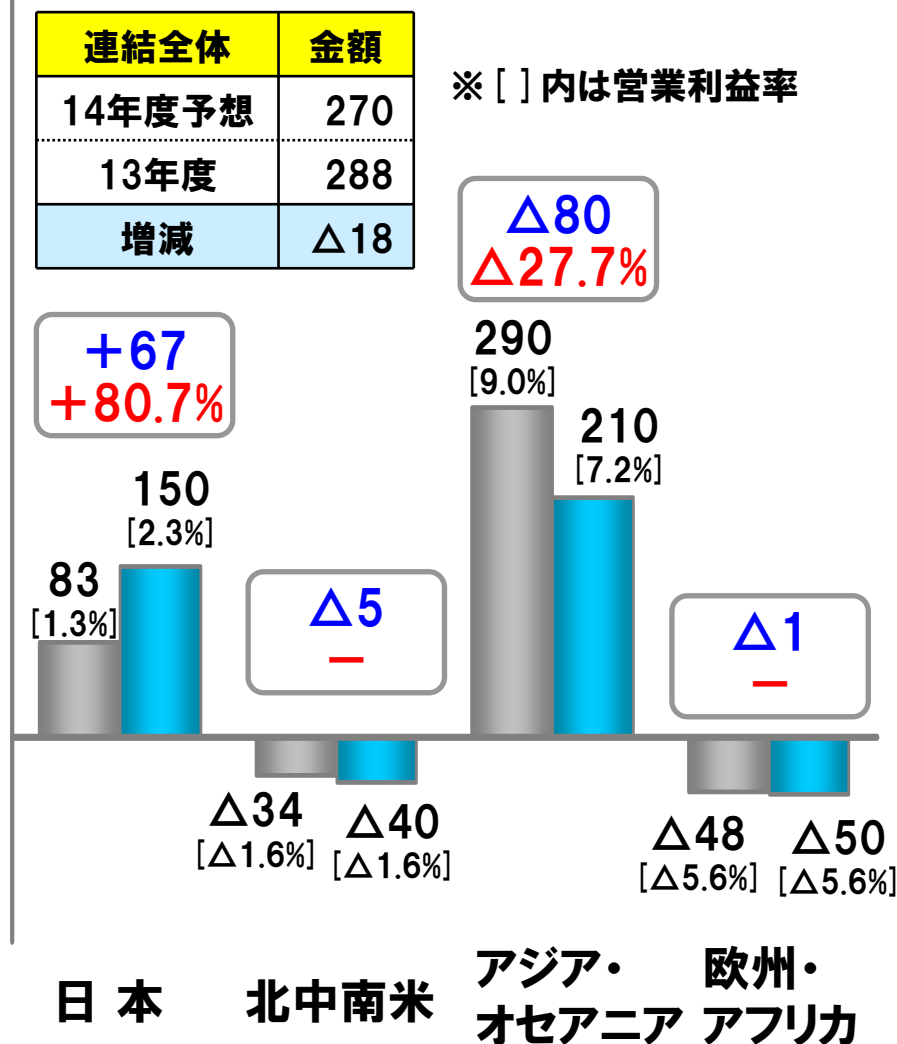
売上高

(億円)



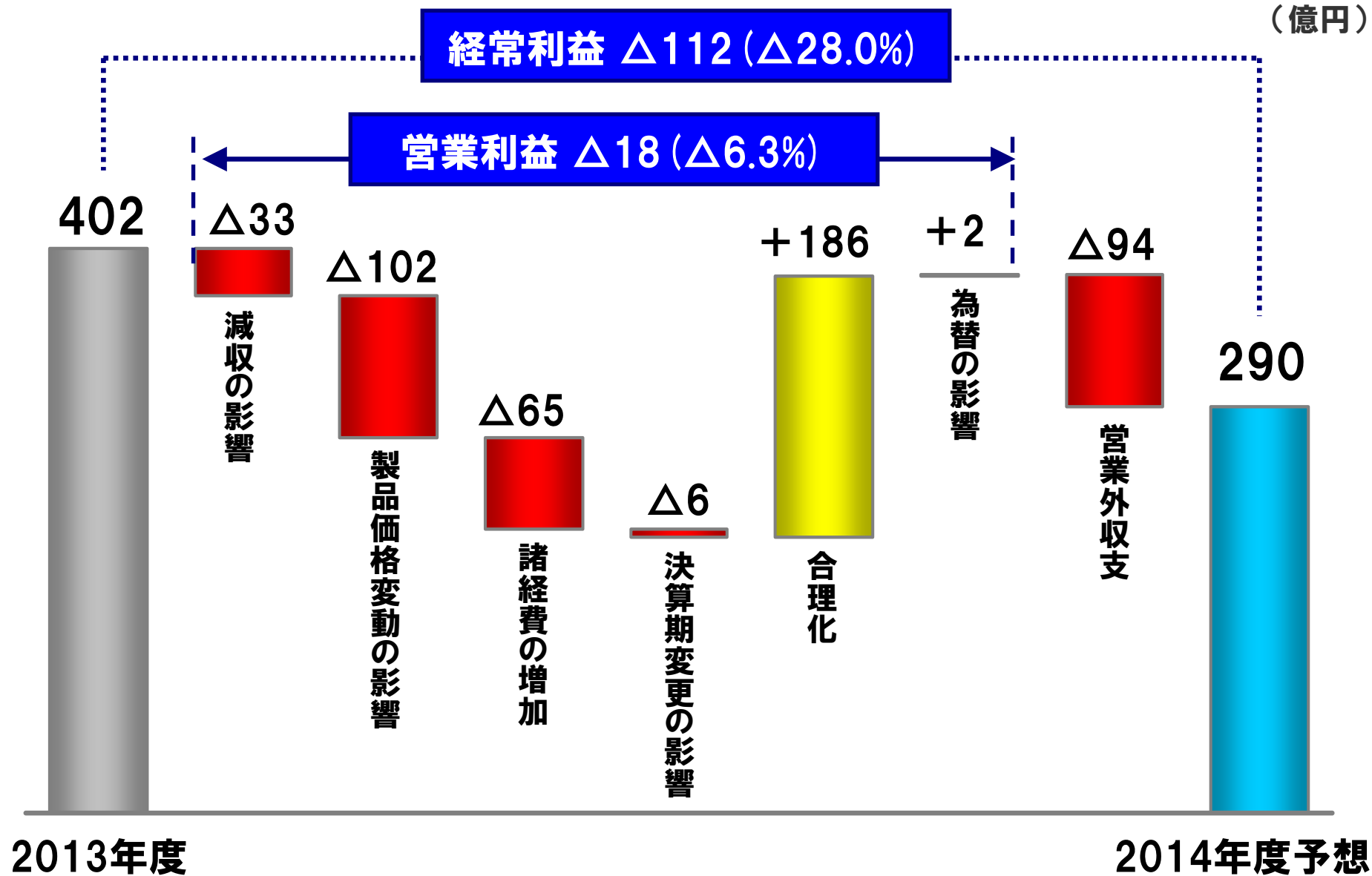
営業利益

(億円)



1-3) 2014年度 通期業績予想 経常利益増減要因

(億円)





Quantum Leap

発想の飛躍

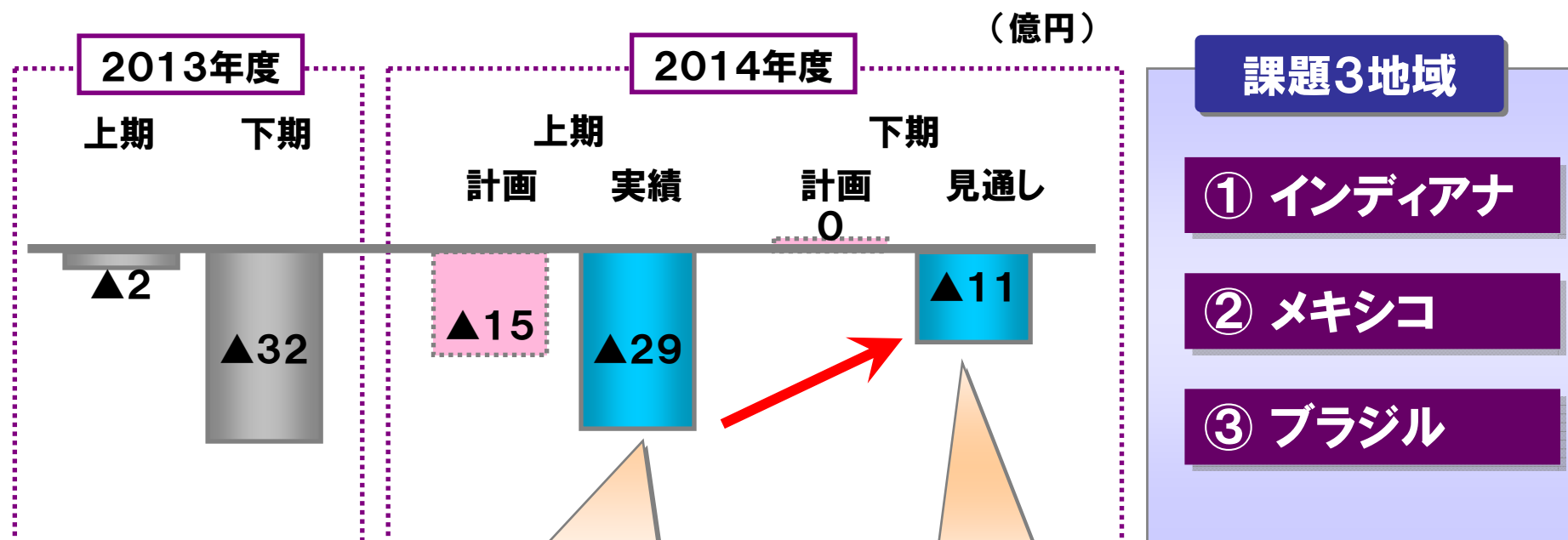
2 地域別の取り組み

1) 地域別の取り組み〔北中南米・欧州〕

2-1) 地域別の取り組み〔北中南米〕

北中南米における課題地域の絞り込み

営業利益

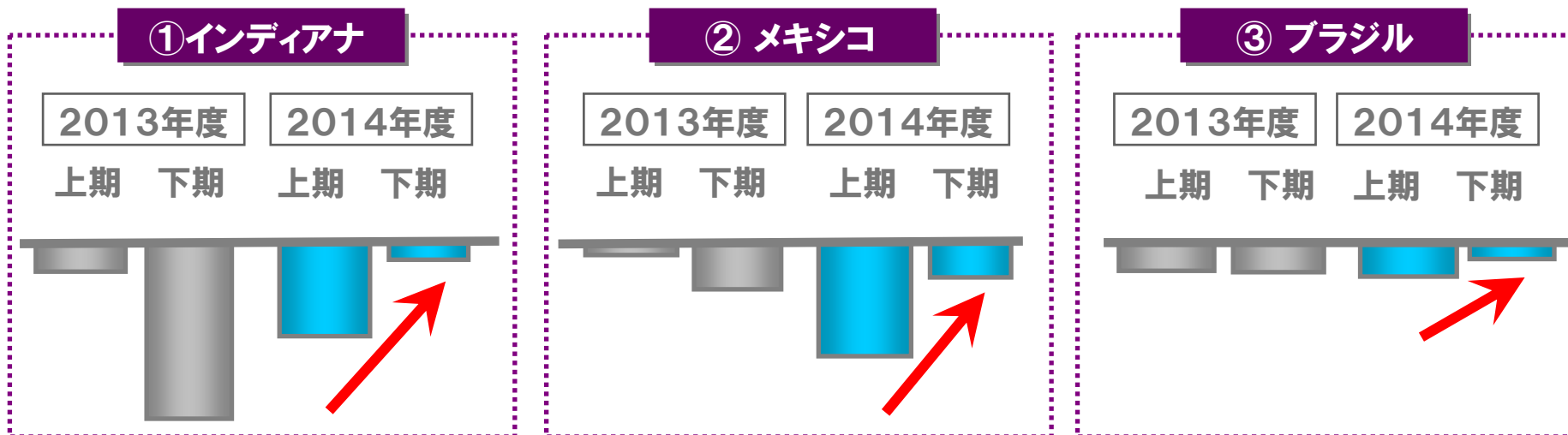


インディアナおよびメキシコの
製品立ち上げロスが解消できていない
〔労務費、緊急輸送費 など〕

収益改善活動の効果により
赤字幅縮小

2-1) 地域別の取り組み〔北中南米〕

課題3地域 収益改善活動の着実な実施



- ①スペース不足による外部倉庫の借用
- ②低定着率、低出勤率

- ①客先品質基準変更に対応した労務費・緊急輸送費が発生
- ②労務費低減遅れ

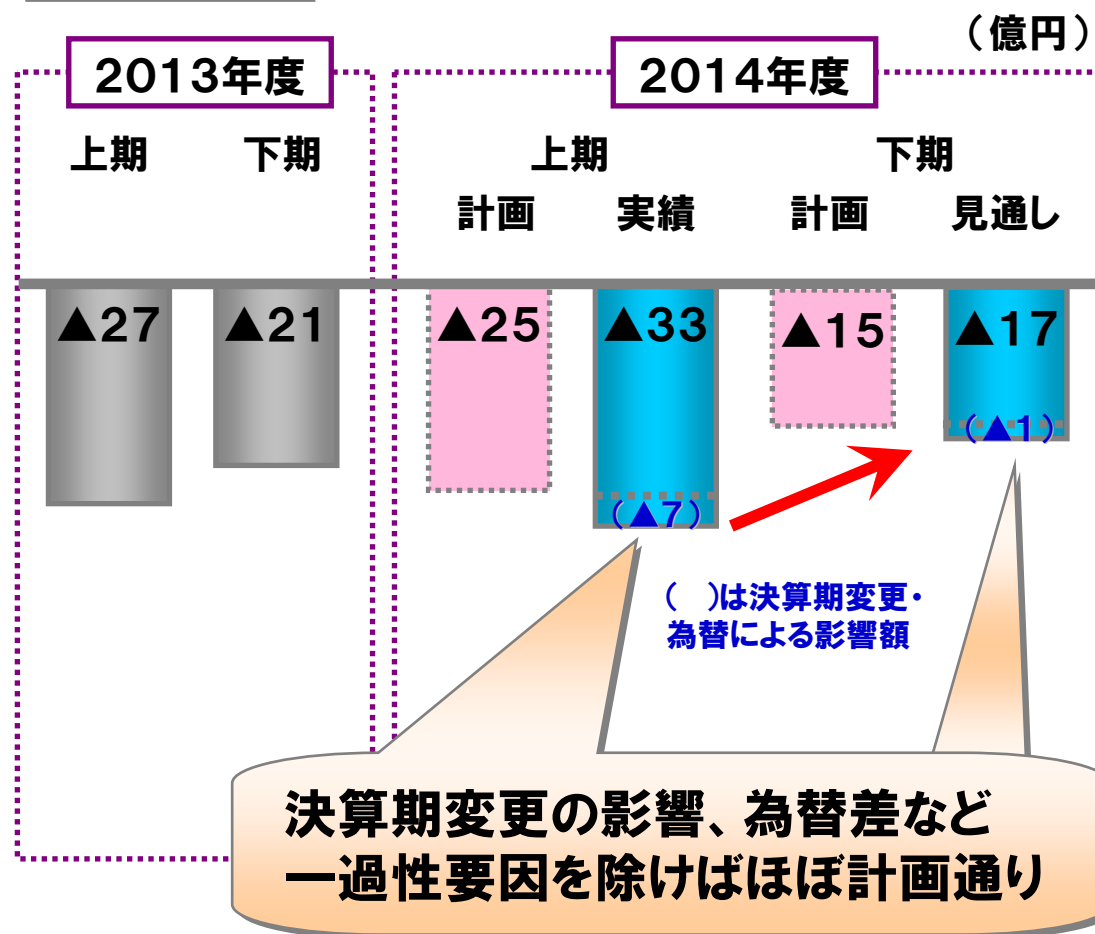
- ①見込み台数からの減少
- ②労務費低減の遅れ
- ③新規立上げの支援費増

収益改善委員会での改善進捗状況のフォローと
本社各機能の能動的支援の実施

2-1) 地域別の取り組み〔欧州・南アフリカ〕

欧州収益構造改革を計画通り推進中

営業利益



1) 本社機能

◆要員の最適化

規模のスリム化と効率化を図るため
BAE本社機能を、欧州統括会社
トヨタ紡織ヨーロッパへ統合(2014年4月)

2) 製造部門

◆工場改善を強力に推進

- ①生産性向上
(3直→2直化、要員合理化)
- ②体制強化・人材育成



Quantum Leap

発想の飛躍

3 事業の取り組み

- 1) 足元固めの取り組み
- 2) 技術開発

3-1) 足元固めの取り組み①

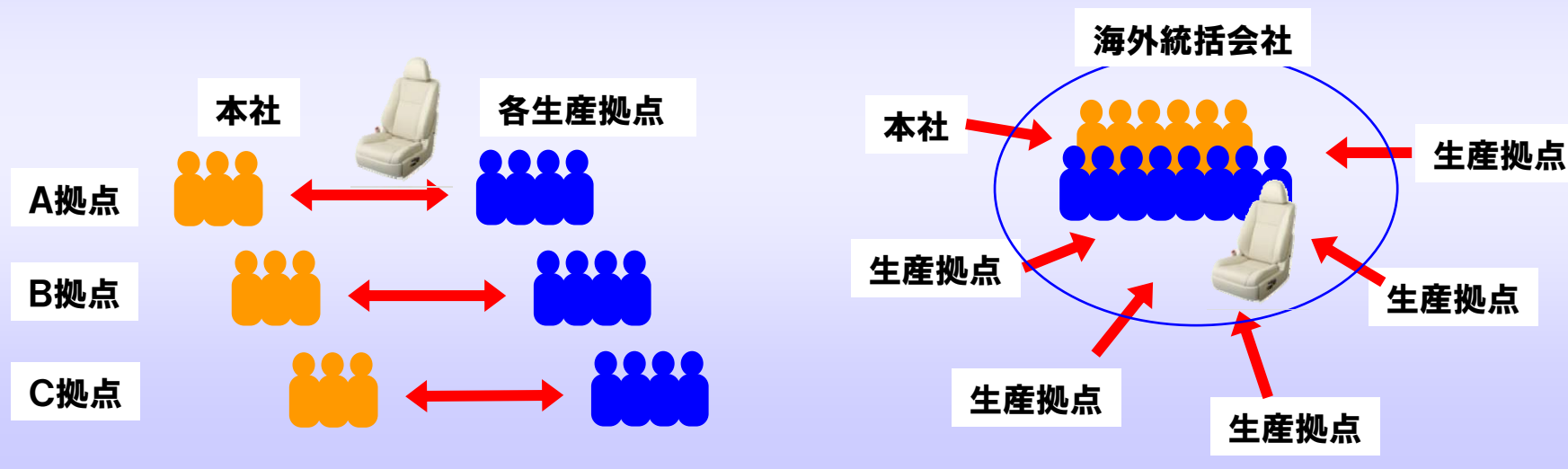
次期グローバルモデルへの取り組み

《課題》世界連続立ち上げに対応した開発・生産準備の確実な実施

従来：本社×各生産拠点が連携し、
立ち上げ車種ごとに
品質作り込みと問題点解決

今回：同一拠点で全世界の問題点早期解決

・全世界の工場、開発、生技のキーマンが一同に
会し、現物のシートを使った組付確認を実施



過去モデル
の反省

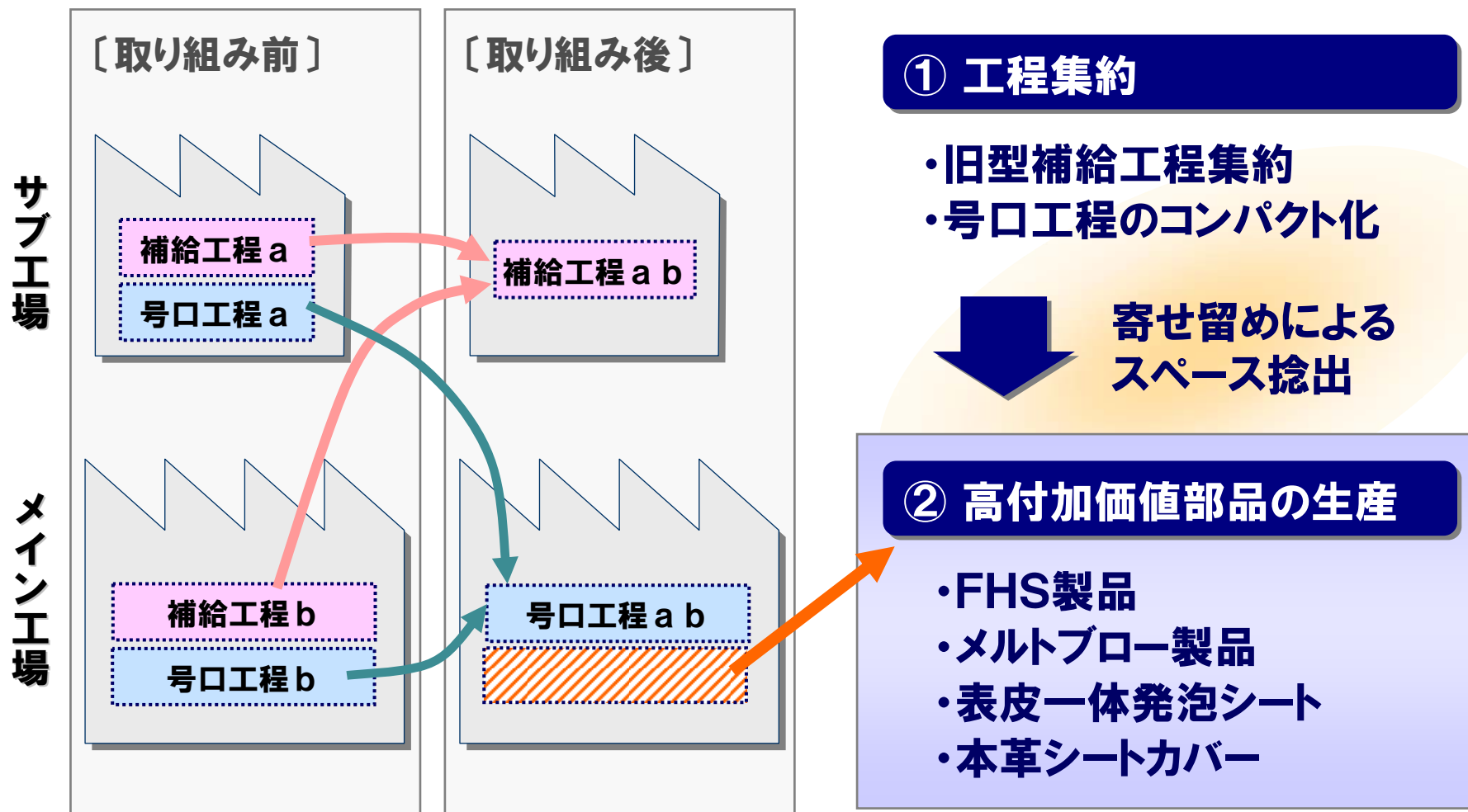
・次期グローバルモデルを通じた
開発・生産プロセス改革

・グローバルモデル
の標準化

3-1) 足元固めの取り組み②

グローバルな域内最適生産体制の強化（国内）

(1) 工場再編による収益確保

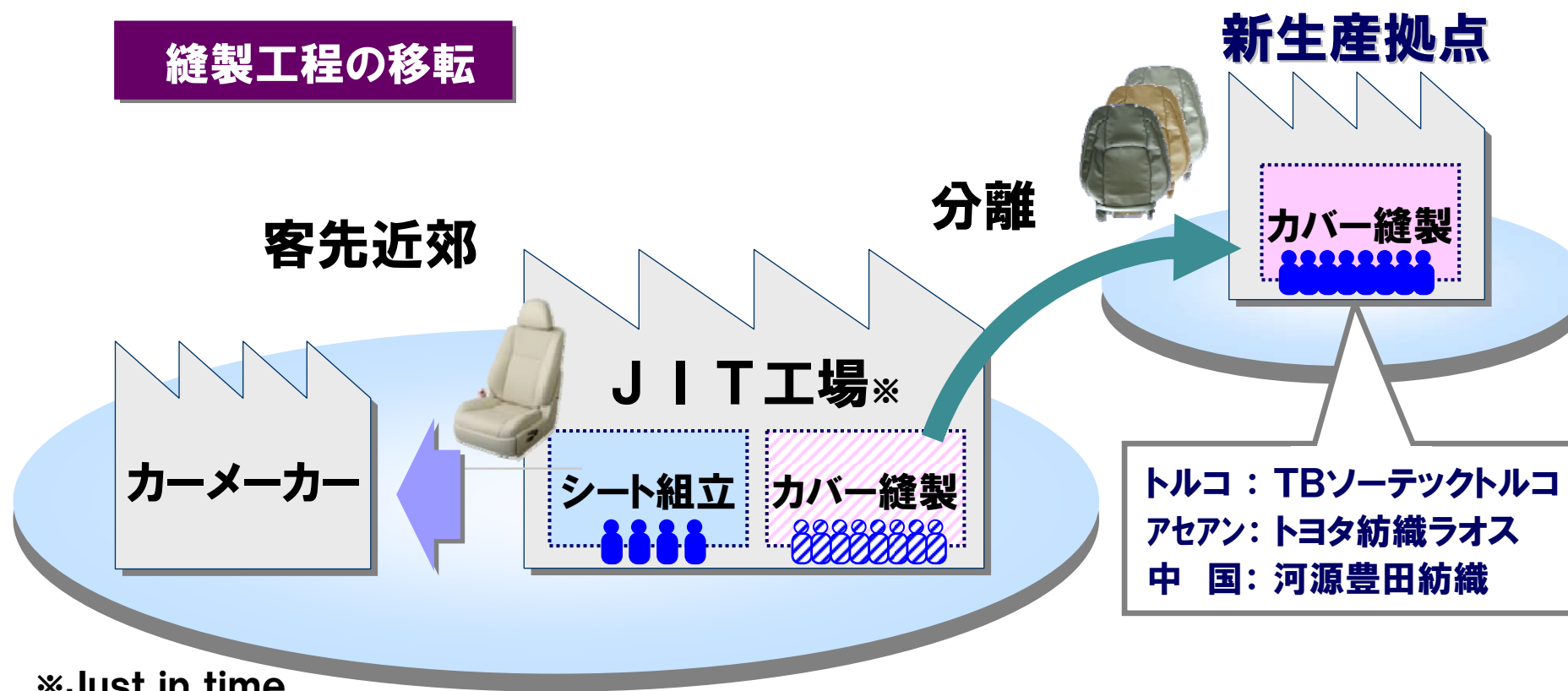


3-1) 足元固めの取り組み②

グローバルな域内最適生産体制の強化（海外）

(2) シートカバー競争力確保への最適生産拠点化

縫製工程の移転



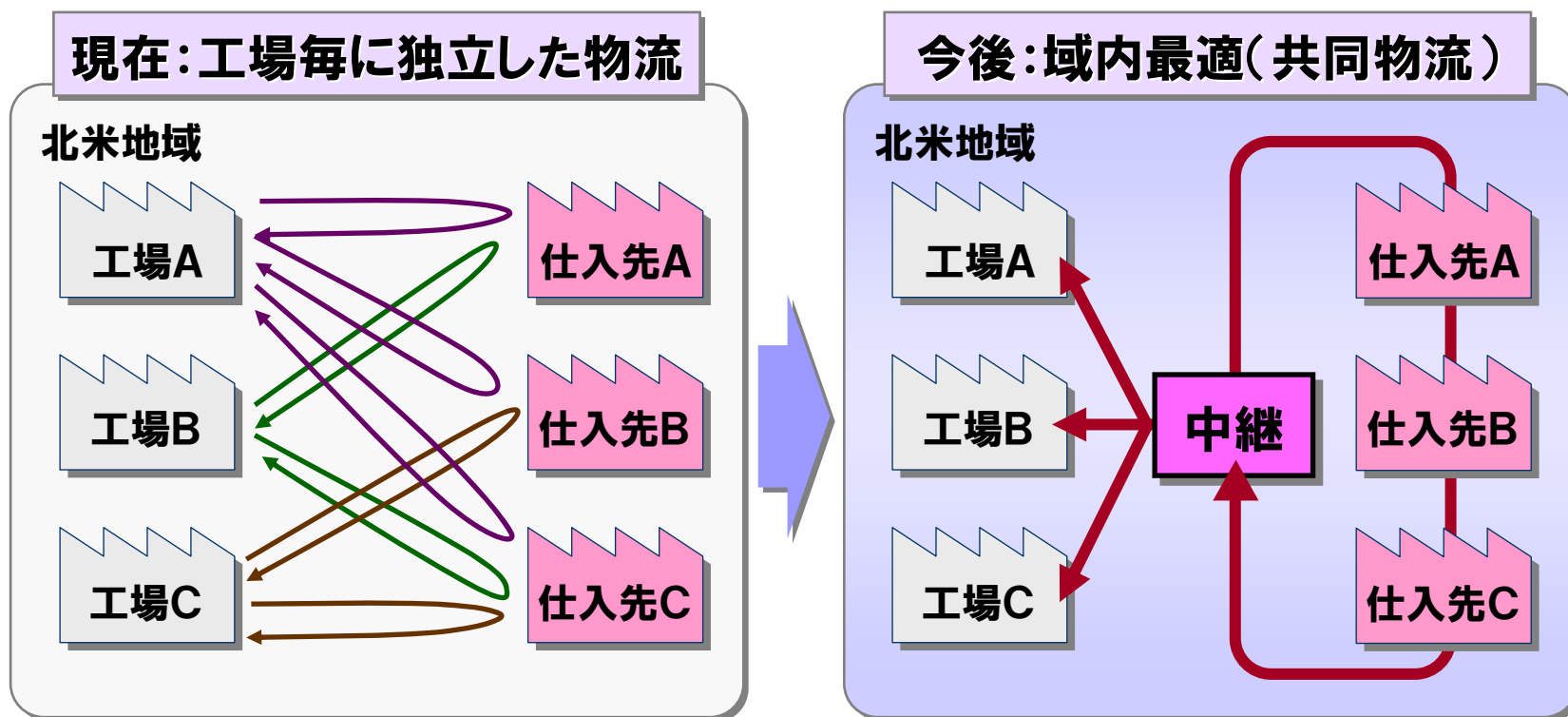
※Just in time

労働集約型の縫製工程を分離移転することで労務費低減を図る

3-1) 足元固めの取り組み②

グローバルな域内最適生産体制の強化（物流）

(3) 北米の物流効率化への取り組み



北米地域から域内最適物流の構築に取り組む
各地域の物流費の低減、CO₂削減をねらう

3-2)技術開発①

表皮一体発泡シートの採用拡大

デザインとホールド性を両立させた
表皮一体発泡工法によるシート開発を推進

採用拡大中

LEXUS IS (2013)
Sporty Sedan



LEXUS NX (2014)
SUV



LEXUS RC (2014)
Coupe



LEXUS RC-F (2014)



3-2) 技術開発②

多治見技術センター・テストコースの試験運用開始

独自のテストコースで、実車走行による動的評価を行い
商品力が高く魅力ある製品開発を目指す。

- ・名称: トヨタ紡織 多治見技術センター
- ・所在地: 岐阜県多治見市
- ・面積: 敷地面積 約36万㎡ テストコース面積 約14万㎡
- ・コース概要: ①周回路(全長1,800m、内 直線670m)
②多種多様な路面を再現した特殊路



3-2) 技術開発③

コア技術の深化による事業拡大

FHS工法 (Fine Hold Stamping)
高精度高速プレス加工技術

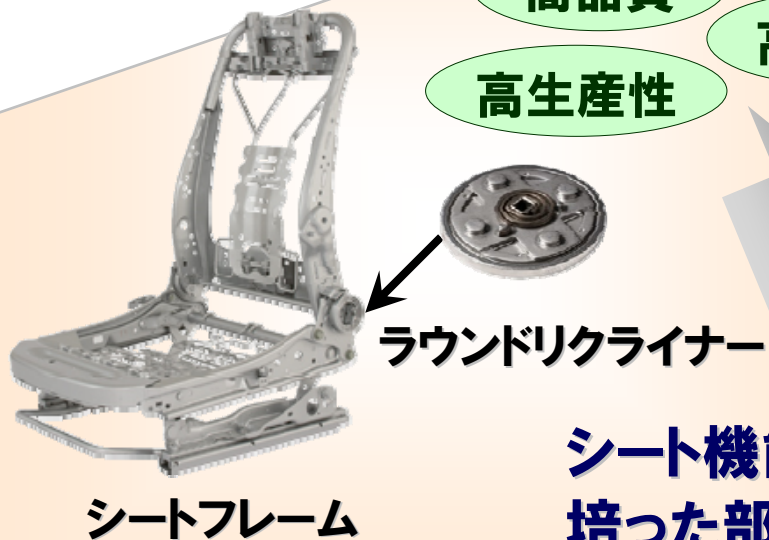
低公害

低燃費

高品質

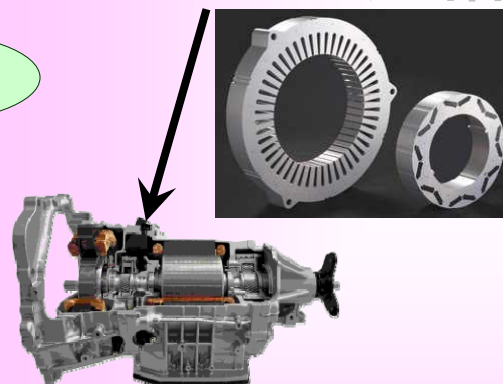
高精度

高生産性



シート機能部品で
培った部品競争力

ハイブリッドモーター部品



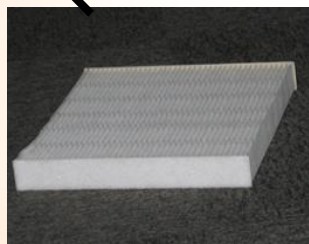
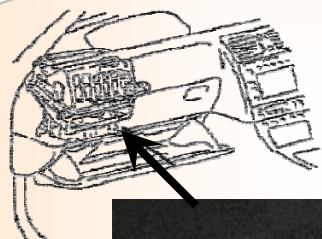
トレンドを見据えた
事業領域拡大

次世代自動車基幹部品への応用

3-2) 技術開発③

コア技術の深化による事業拡大

メルトブロー工法
超微細繊維紡糸技術



キャビンエアフィルター

高機能

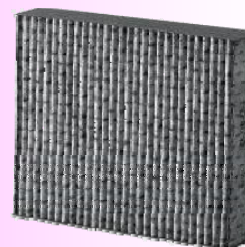
細径繊維

低コスト

異種材料混合
紡糸技術への発展

紡糸技術

異種材料



高性能フィルター

繊維径のコントロール
更なる微細化

高付加価値製品の創出

Design Your Passion



<注意事項>

本資料に記載されている将来に関する業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想値であり、不確実性やリスクを含んでおります。

そのため 実際の結果は様々な要因によって業績予想と異なる可能性があります。